

大豆NEWS!

vol 5

’99アメリカ大豆コンファレンス
～日本も負けずに売り込みを！～

12月2日(木)、通算15回目となる「アメリカ大豆の品質展望コンファレンス」が開催されました。このコンファレンスは、アメリカ大豆協会が、商社を主体とした大豆関係者に新穀アメリカ大豆の包括的な品質などを報告し、またお互いに情報交換するために毎年開催しているものです。

今年は、遺伝子組換え大豆が話題になった年であり、アメリカ大豆協会としてもこのことを大変気にしている講演内容でした。

クブカ氏(アイオワ大豆協会生産技術部長)は、遺伝的に価値を高めた農作物の健康上・工業上の有位点を述べ、遺伝子組換え技術のすばらしさ、利点を訴えました。

また、ランゲル氏(ASA海外マーケティング委員会副委員長、農家)は、現在のアメリカにおける大豆生産の概況(特に価格について)説明し、「アメリカはこれからもニーズに応じた大豆を安定的に供給していく国たり得る」とアピール。さらに、「大豆を買ってくれる日本のバイヤーがあってこそ我々農家があり、更に結びつきを強化したい」と述べました。また、ラウンドアップレディーに関しては、安全性も確認されているし、それを最初に食べるのはアメリカ人であり、危険なものを作るはずがないと訴えました。

プラム氏(MBS社テクニカルディレクター)は、本年産の大豆の作付動向及び品質について説明。それによると、大豆作付面積は前年比3%増、ラウンドアップレディーは全作付面積の57%。本年産の品質はタンパク含量が35.6%、油分は18.5%(いずれも全米平均)でした。このような品質情報等を積極的に公表しており、これが安定的な取引に繋がっているようでした。また、品質分析の結果、高品質な大豆にはプレミアムを付けることにより、農家の努力を促しているようです。

講演終了後の質疑応答ではGMOについての質問が多く、その中でプラム氏は個人的な見解と断った上で、来年のラウンドアップレディーの作付は全作付面積の65%程度だろうと推測しました。

今回のコンファレンスは、特に日本におけるGMOへの不安を払拭しようという目的だったように感じました。これは、現在向かい風のアメリカが巻き返しを狙ったものであり、この対応の素早さには感心しました。それと、終始パートナーシップという言葉を使い、今後も安全で高品質な大豆を安定的に供給していくことはアメリカの使命であると訴えていました。

現在、本コンファレンスでも取り上げられたように、GMOの問題があり、国産大豆に追い風が吹いています。今こそ、このアメリカの取組を見習い、国産大豆の定着に向けて関係者が協力する必要があると感じました。

発行：不定期

発行元：農林水産省畑作振興課 豆類班 tel 03-3502-8111

内線 E-mail

豆類班長 鈴木良典 4333 yoshinori_suzuki@nm.maff.go.jp

農産園芸専門官 河合亮子 4318 ryoko_kawai@nm.maff.go.jp

大豆企画係長 後藤 寿 4319 hisashi_gotou@nm.maff.go.jp

大豆指導係 一関英樹 " hideki_ichinoseki@nm.maff.go.jp

- ・記事や大豆生産振興に関する御質問・御感想など、御自由にお寄せください。
- ・記事を転載される場合は、御一報ください。